



2節の問い ユーラシア大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのだろうか。

世界とのつながりを
考えよう

～地図編②～

13世紀ごろの世界

やってみよう

1. 地図のなかから、下に挙げたA～Dを探してみよう。

A. 日本の武士と元(モンゴル帝国)の兵士の戦い

ヒント →p.81 6

B. 中国商人から陶磁器を受けとるイスラム商人

ヒント →p.79 2

C. アストロラーベを使って航海するイスラム商人

ヒント →p.106 3

D. イスラム商人から、中国産の陶磁器を受けとるイタリア商人

2. イタリア商人マルコ=ポーロの行路をたどり、マルコ=ポーロのイラストを3か所見つけよう。

ヒント →マルコ=ポーロ(右絵)



3. 見方・考え方

Aのように、13世紀末に元(モンゴル帝国)が日本に襲来したが、モンゴル帝国は日本のほかにどこを襲ったのだろうか。地図から考えてみよう。



世界各地での戦いは、それぞれどの地域の人たちが争っているのかな。

→1 鎌倉時代(13世紀)のころの世界 世界とのつながり



1 モンゴル帝国と「蒙古襲来」



学習課題 モンゴル帝国の拡大は、鎌倉幕府にどのような影響を与えたのだろうか。

モンゴル帝国の出現と拡大

モンゴル高原などの草原地帯では、羊などの家畜を飼い、草原を馬に乗って移動しながら生活する遊牧民が暮らしていました。13世紀初め、チンギス=ハンが遊牧民たちをたばねて騎馬軍団を組織し、中国北部など平原地帯に進出してモンゴル帝国を築きました。さらに、その子孫たちは高い

総文
1 弥生
2
3
4
5 古墳
6
7 飛鳥
8 奈良
9
10 平安
11
12
13 鎌倉
14 南北朝
15 室町
16 戦国
17 安土・桃山
18 江戸
19 明治
20 大正
21 昭和
22 平成
23 令和



機動力と軍事力を生かして東アジアから西アジア、東ヨーロッパへ領土を広げ、ユーラシア大陸にまたがる広大な地域を支配しました。

モンゴル帝国は、各地の民族・宗教・言語を認め、優秀な人材を活用して発展しました。また大陸と海上の交通路が整えられ、ユー

ラシア大陸の東西の交易や文化交流が活発になりました。イスラム商人たちは、西方で発達した天文学や数学、医学を東に伝え、中国で発達した陶磁器や火薬、羅針盤などの技術を西に伝えました。

→2元でつくられた陶磁器 宋のころに発達した白い陶磁器に、イランから伝わった技術で模様がつけられました。完成した陶磁器は、商人たちによってヨーロッパにまで運ばれ、人気を博しました。



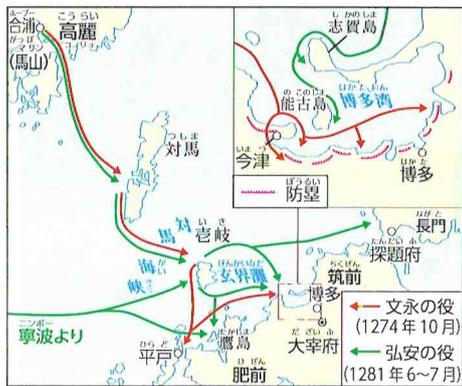


←3 フビライ
= ハン
(1215~94)
[台北 国立故宫
博物院蔵]

元から日本への、服属を求める手紙

大モンゴル国の皇帝(フビライ)が、日本国王に書を送る。…私の先祖が天下を支配したので、遠くの国もわが国を畏れて朝貢に来ている。…日本は高麗に接しており、開国以来、ときには中国とも通交してきた。(ところが)私が皇帝となってからは、使者を送って通交しようとはしてこない。…今後は通交し合うとしよう。…通交しないというのは理に合わないことだ。兵を用いるような事態になることはどちらにとっても、好ましいことではあるまい。…

[東大寺尊勝院文書より、一部要約]



↑5 文永の役・弘安の役における元軍の進路

① 当時の日本人々はモンゴルを蒙古とよび、その戦いを蒙古襲来・蒙古合戦などといいました。「元寇」とよぶようになったのは江戸時代になってからで、「寇」とは、国外から侵襲してくる敵という意味です。

地域史 北と南を襲ったもう二つの蒙古襲来

元軍は、九州北部にやって来ただけではありませんでした。13世紀後半から14世紀初頭の樺太(サハリン)では、元軍とアイヌ民族の間で、断続的な戦いが続きました。また、元の歴史書には、南の琉球を元軍が攻めたとされる記述があります。

未来に向けて グローバルな東西交流の光と影

情報・技術

モンゴル帝国が広大な領地を交通路でつなげたことで、ユーラシア大陸で人・もの・情報の移動と交流が盛んになりました。イタリアの商人マルコ=ポーロは、旅行記『世界の記述(東方見聞録)』でヨーロッパに東方の様子を伝え、これが大航海時代にヨーロッパの人々がアジアを目指すきっかけにもなりました(→p.108)。

しかし、盛んな交流には負の側面もありました。14世紀半ば、ヨーロッパや北アフリカで感染症「ペスト(黒死病)」が大流行し、多くの死者が出ました。これに先じて、中国でペストの大流行が起こっていたため、東西交流によりペストが中国からヨーロッパに伝わり、世界的な流行が起きたと考えられています。

→4 後世に描かれたマルコの旅行記の挿絵 マルコは自身の旅行記に、ユーラシアを三人で旅してフビライに仕えたと記しています。また、その本で彼は日本を「黄金の国ジパング」とヨーロッパに紹介しました。この絵ではフビライはヨーロッパ風に描かれています。



元の成立とアジア遠征

モンゴル帝国による中国北部の支配が続くなか、チンギス=ハンの孫で皇帝となったフビライ=ハンは、都を大都(現 北京)に移し、国号を元に変えました。1276年、フビライは中国南方を支配し続けていた宋を降伏させ、中国全土に支配を広げました。元が、大都のある中国北部と中国南部とを結ぶ大運河を整備したことで、北側の大陸交通路と南側の海上交通路とが結び、東西交流はいっそう活発になりました。

フビライは周囲のアジア諸国にも軍を進めていました。しかし、高麗は30年にわたり抵抗し、大越(現 ベトナム)も粘り強く闘いました。これらが元の日本遠征を妨げる要因になりました。

二度の蒙古襲来

フビライは1273年に高麗を征服した後、日本に朝貢と服属を要求しました。8代執権北条時宗がその要求を無視すると、1274(文永11)年10月、元軍は九州北部に押し寄せ、博多湾(福岡県)に上陸しました。幕府軍は、元軍の集団戦法と武器などに苦戦しましたが、元軍は冬が来ると補給や撤退が難しくなることもあってすぐに引き揚げました(文永の役)。1281(弘安4)年6月、元の大軍が再び九州北部を襲いました。元軍は、幕府軍の抵抗や海岸に築かれた防塁にはばまれて上陸できず、激しい暴風雨で壊滅的な打撃を受けて引き揚げました(弘安の役)。この二度



↑6元軍と戦う武士 九州の御家人、竹崎季長が蒙古襲来における自分の戦いを描かせたものです。**小地公**【国宝】『蒙古襲来絵詞』東京都 皇居三の丸尚蔵館蔵】資料活用 日本の武士と元軍では、戦い方にどのような違いがあるだろうか。

→7海中から発見された元軍の武器 土を固めて焼いた球状の入れものに、火薬や鉄片を詰めて、敵に向かって投げました。



〔長崎県 松浦市教育委員会提供〕

にわたる戦いを**蒙古襲来(元寇)**といいます。フビライは三度目の遠征を計画していましたが、彼の死により中止となりました。

蒙古襲来は、日本の人々に強い恐怖感を植えつけましたが、一方で暴風雨は日本の神々が国を守るために起こしたのだと考えられるようになり、日本を「神国」とし、元軍の一員として戦った高麗(朝鮮)よりも日本を上を考える思想が強まっていきました(神国思想)。

御家人たちの不満

御家人たちは恩賞を期待して元軍に立ち向かいましたが、防衛戦であったため、幕府は恩賞の領地を十分に与えることができませんでした。また、弘安の役の後も、元軍の襲来に備えて海岸警備は続けられたため、その負担が御家人たちに重くのしかかりました。

当時の武士たちは、分割相続を繰り返して領地が狭くなっていました。また、貨幣経済の広まりも、武士の生活を不安定にしました。こうしたなか、生活に苦しんで借金を重ね、土地を手放す御家人が出てきました。幕府は、御家人が手放した土地を取り返させる**徳政令**を出して御家人を救おうとしますが、一時的な効果しかありませんでした。これに対して、北条氏の一族だけが広大な領地をもち、幕府の重要な役職も握っていたため、御家人の心はしだいに幕府から離れていきました。



↑8元軍を防ぐために築かれた防壁 文永の役の後、次の蒙古襲来に備えて、博多湾岸に高さ3mの石の防壁が築かれました。【国宝】『蒙古襲来絵詞』東京都 皇居三の丸尚蔵館蔵】

永仁の徳政令(1297年)

所領を質に入れて流したり、売買したりすることは、御家人たちが落ちぶれるもとであるので、今後はいっさいやめよ。
…これまでに御家人でない武士や庶民が御家人から買った所領は、20年以上たっても、返すこと。【一部要約】



確認しよう 蒙古襲来で、元軍を防げた理由を、本文から書き出そう。



説明しよう 蒙古襲来の後、御家人たちの不満が高まった理由を説明しよう。

1	縄文
2	弥生
3	
4	
5	古墳
6	
7	飛鳥
8	奈良
9	
10	平安
11	
12	
13	鎌倉
14	南北朝
15	室町
16	戦国
17	安土・焼山
18	江戸
19	明治
20	大正
21	昭和
22	平成
23	令和

1 東アジアのなかの博多



年	日本の出来事	中国
630	最初の遣唐使が那津(博多)に泊まる	
663	朝鮮半島に出兵(白村江の戦い、→p.40)	
664~665	水城や大野城をつくる(→p.40 11E)	唐
710	(平城京に都を移す)	
794	(平安京に都を移す)	
894	遣唐使を中止する(→p.55)	古代
1192	(源頼朝が征夷大將軍になる)	中世
1195	榮西が聖福寺を開く 11	宋
1274	蒙古襲来(文永の役、→p.80)	
1276	防塁を築く(→p.81 12)	
1281	2度目の蒙古襲来(弘安の役) 11	元
1338	(足利尊氏が征夷大將軍になる)	
1401	博多商人を明に派遣	明
1404	勘合貿易始まる(→p.86)	

↑ 1 蒙古襲来時の博多 2度目の襲来(弘安の役)の様子です。[画: 黒澤達矢氏 監修: 平井聖氏]

← 2 古代から中世にかけての博多の外交を示した年表



← 3 鴻臚館跡から出土した西アジア製のガラスびん(福岡市) 鴻臚館跡からは、このほかに中国製の陶磁器や朝鮮半島の土器など海外との交流を示す遺物が多数出土しています。[福岡市埋蔵文化財センター蔵]



→ 4 博多市街から出土した中国産の陶磁器(福岡市) 今までに百万点以上の白磁が出土しており、その量から「白磁の洪水」といわれています。[福岡市埋蔵文化財センター提供]

① どうして外国との接触が盛んだったのかな?

博多湾は、周囲の島々によって外海と隔てられており、波が穏やかです。また、中国大陸や朝鮮半島と近いため、渡航技術の乏しい古代から、東アジアの窓口となりました。大陸から政治情勢や文化などが伝わる一方、外国から侵入される危険もありました。政治の中心である近畿地方から遠く離れているため、古代において大宰府は九州支配と海外防衛の二つの拠点となりました。また蒙古襲来の時には、博多が武士と元軍の激戦地となりました。

② 古代や中世の博多はどのような都市だったのかな?

古代には、東アジアからやってくる外交使節をもてなすための施設(鴻臚館)が建設され、遣唐使などの宿泊にも利用されました。そこへは中国や朝鮮のものだけでなく、西アジア製のガラスびんなどもシルクロード(→p.21)を通ってもたらされました。中世には中国産の陶磁器が「白磁の洪水」とよばれるほど大量にもたらされ、外国のブランド品があふれる流行の最先端の都市として注目されました。そして、盛んに行われる交易により、博多は繁栄を極めました。



疑問

九州の博多周辺では、古代には大宰府が置かれて、中世には元軍が攻めてくるなど、いろいろな形で外国との接触がみられたね。どうして、博多周辺は外国との接触が盛んだったのかな。また、博多はどのような都市だったのかな。

主な関連事項と関連ページ
大宰府 p.40~41 シルクロード p.21、44~45
蒙古襲来(元寇) p.80~81
勘合貿易 p.86~87

2 博多と貿易



↑ 沈没船が見つかった場所 海中で陶磁器が見つかったので、詳しく調査をした結果、海底の泥のなかから沈没船が発見されました。



↑ 韓国新安沖で引き上げられた沈没船 原形をとどめた姿で船が発見されることは珍しく、この船は木造で長さ約30m、幅約9.4mありました。[韓国国立海洋遺物展示館蔵]

↓ 沈没船から見つかった中国製の銅銭 船室から、約800万枚の中国製の銅銭が見つかりました。このほかに、中国の元で焼かれた陶磁器が、約2万点も見つかりました。[韓国国立中央博物館提供]



← 聖福寺(福岡市) 博多にある、日本で最初の禅寺です。1195年に栄西によって創建され、博多にいた中国の商人たちによって支えられました。

歴史 プラス 博多から広がった文化

禅宗の臨済宗を伝えた栄西(→p.75)は、茶を日本に広めた人物でもあります。12世紀後半に宋へ渡った栄西は、中国で茶が薬として用いられているのを知り、茶の種を日本に持ち帰りました。その後栄西は、博多の聖福寺や佐賀県の脊振山でその種を植えて栽培を始め、将軍源実朝(→p.71)が病気のときには、それを献上しました。現在では、各地で茶が栽培されています。

また、13世紀半ばころには、博多にうどんやそばなどのめん文化が伝わったとされています。ある年、宋の貿易商である謝国明が、疫病で苦しんでいる博多の町人にそばをふるまいました。それが大晦日のことであったため、その後、年越しそばとして定着したといわれています。



→ 餛飩蕎麦発祥之地の碑(承天寺) [福岡市提供]

朝鮮の『海東諸国紀』に記された博多(1471年)
住民は一万戸余りいる。…住民は行商を生業としている。琉球、南蛮の商船が集まる所である。…我が国(朝鮮)にやってくる者は九州のなかで、博多の者が最も多い。 [現代語訳]

日本の『筑紫道記』に記された博多(1480年)
この地の様子を見ると、前には入り江が広がり、志賀島を見渡して、沖には大船が多く見られる。中国人も乗っているようである。…仏閣僧坊は数えきれず、人民も門を並べて軒を争い、その境は四方に広い。 [現代語訳]

3 幕府にとってどれくらい重要な都市だったのかな？
幕府にとって博多は、大陸との大切な中継地であり、政治や経済にとって欠かすことのできない貿易港でした。例えば、1975(昭和50)年に朝鮮半島近海で発見された沈没船には、陶磁器だけでなく大量の銅銭が積まれていました。この船は、元から博多に向かっていた交易船とされています。このような中国の銅銭によってもたらされる富はばく大で、鎌倉幕府や室町幕府が寺を建てたり、再建したりするための資金などとして使われました。

4 博多ではどんな暮らしをしていたのかな？
博多の遺跡からは、商人たちの暮らしが分かる遺物が見つっています。なかでも櫛や鏡といった化粧道具は高価な品で、豪商の妻の墓から副葬品として見つかりました。ほかにも大小さまざまなげたが見つかり、大人から子どもまで普及していたことが分かります。また宋の商人や僧侶は禅宗やお茶、うどんといった文化も博多に伝えました。それらは、その後全国へと広がり、今でも私たちの生活のなかに残っています。



重文

↑1 悪党の姿 鎌倉時代末期に描かれました。〔聖徳太子絵伝〕大阪市 四天王寺蔵

この頃都にはやる物、夜討強盗にせしめ、召人早馬、虚騒動、生くび還俗、自由出家、俄大名、迷者、安堵、恩賞、虚軍、本領はなる訴訟人、文書入れたる細葛、追従、讒人、禅律僧

二条河原の落書

このごろ都ではやるのは、夜討ちや強盗、天皇のにせの命令。逮捕された人や緊急事態を知らせる早馬、起こつていない騒動。生首があつたり、勝手に僧になつたり戻つたり、急に大名になつたり路頭に迷つたり。土地や恩賞ほしさうその戦を言い出す者もいる。所領を離れ都へ訴えに来た人は、証拠の文書を入れた細いつづらをもっている。ごまをすつたり密告したりする人や、政治に口出しする禅宗や律宗の僧もいる。

↑2 二条河原の落書 1334(建武元)年に、京都の二条河原に掲げられたとされる文章です。

この落書は、京都がどんな状態だと伝えていたのかな。



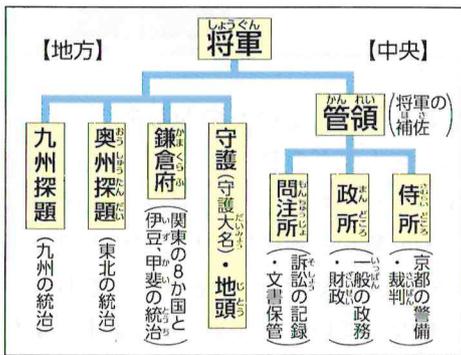
2 南北朝の内乱と新たな幕府

2節の問い ユーラシア大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのだろうか。

解説 悪党と御家人

幕府に従う御家人に対し、幕府や荘園領主に従わない武士たちは「悪党」とよばれ、幕府などの取り締まりの対象となりました。悪党という言葉は現在と意味が違います。

① 公家という言葉は、鎌倉幕府成立後、将軍や上級武士である武家に対して、朝廷側の貴族を指す言葉として用いられました。



↑3 室町幕府のしくみ 資料活用 p.70 ④の鎌倉幕府のしくみと違う点を、守護に注目して挙げてみよう。



学習課題

武家政権は、鎌倉幕府の崩壊の後、どのように変化したのだろうか。

鎌倉幕府の崩壊

蒙古襲来を境に鎌倉幕府の政治が行き詰まるなかで、近畿地方を中心に、幕府に従わない武士たち(悪党)が登場してきました。彼らは集団で荘園や寺社に押し入ったり、年貢を奪ったりしました。また、商品の流通に目をつけ、港湾や関所などで収入を得ようとしていました。以前から政治の実権を武家から朝廷に取り戻そうと考えていた後醍醐天皇は、悪党や幕府に不満をもつ御家人を味方につけると、幕府を倒す戦いを起こしました。1333年、楠木正成たち悪党や、足利尊氏・新田義貞たち東国の御家人などの働きによって、鎌倉幕府は滅びました。

動乱の半世紀

1334(建武元)年、後醍醐天皇を中心とする政治が始まりました(建武の新政)。しかし、これまでの武家のしきたりを無視し、天皇に権力を集めて新しい政策を次々に打ち出したため、武士や農民だけでなく、天皇に近い立場であるはずの公家(貴族)からも批判を浴びました。尊氏が、武家政権の復活を目指して兵を挙げると、新政は2年半で終わりました。

尊氏は新しい天皇を即位させ(北朝)、自分は1338年に征夷大将軍となり、京都に幕府を開きました。一方で、吉野(奈良県)に逃れ



←4 後醍醐天皇(1288～1339) 身分にとられず人材を登用し、みづから政治を行う異色の天皇でした。この後醍醐天皇像は、身なりや持ち物などから、神仏の生まれ変わりとして描かれたと考えられています。

【原文】神奈川県藤沢市 清浄光寺(遊行寺)蔵

資料活用 王の象徴である冠、仏の象徴である袈裟、神の象徴である狛犬を探してみよう。

↑5 足利将軍の御所の様子『洛中洛外図屏風』(上杉本)山形県米沢市 上杉博物館蔵



↑6 室町幕府と主な守護大名 京都の幕府に対して、鎌倉には鎌倉府が置かれました。足利氏の一族がその長官(鎌倉公方)となり、補佐役として関東管領が置かれ、関東の政治を行いました。

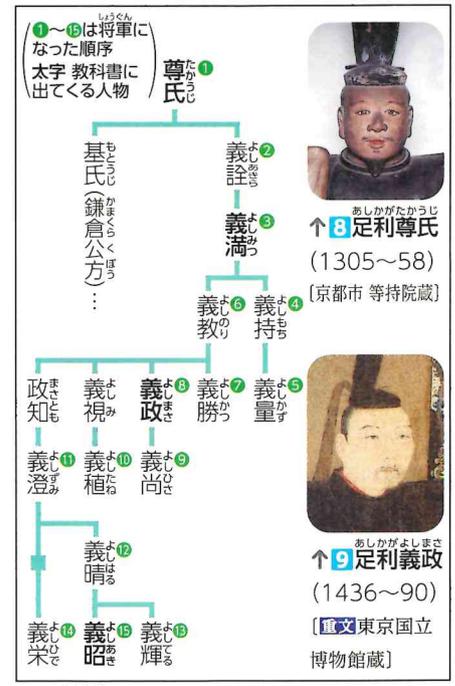
た後醍醐天皇も自分こそが本当の天皇だと主張したため(南朝)、全国の武士は二つの勢力に分かれ、60年近く戦いが続きました(南北朝時代)。この内乱のなかで、守護は軍事・警察権のみならず、軍事費などにするために荘園の年貢の半分を取り立てる権限を認められました。そして守護は、領国の武士を家来として従え、荘園支配の立て直しを図り、国司に代わって一国を支配する守護大名へと成長していきました。

京都に置かれた室町幕府

3代将軍足利義満は、1392年、南北朝を統一して内乱を終わらせました。義満が京都の室

町に御所を構えたので、足利氏の幕府を室町幕府といい、足利氏の幕府が続いていた時期を室町時代といいます。室町幕府には、将軍の補佐役として管領が置かれ、京都の支配と御家人の統率を担う侍所の長官とともに、有力な守護大名が任命されました。また幕府は金融業者を保護して税金をとり、財源としました。

やがて管領と有力な守護大名の話し合いで政治が行われるようになると、将軍は彼らを統制することができず、幕府の力が地方にまで及ばなくなりました。関東を支配していた鎌倉府の足利氏(鎌倉公方)も、幕府と対立するようになりました。こうして将軍暗殺や反乱が起こる不安定な時代になっていきました。



↑7 足利氏の系図



↑8 足利尊氏 (1305～58) [京都市 等持院蔵]

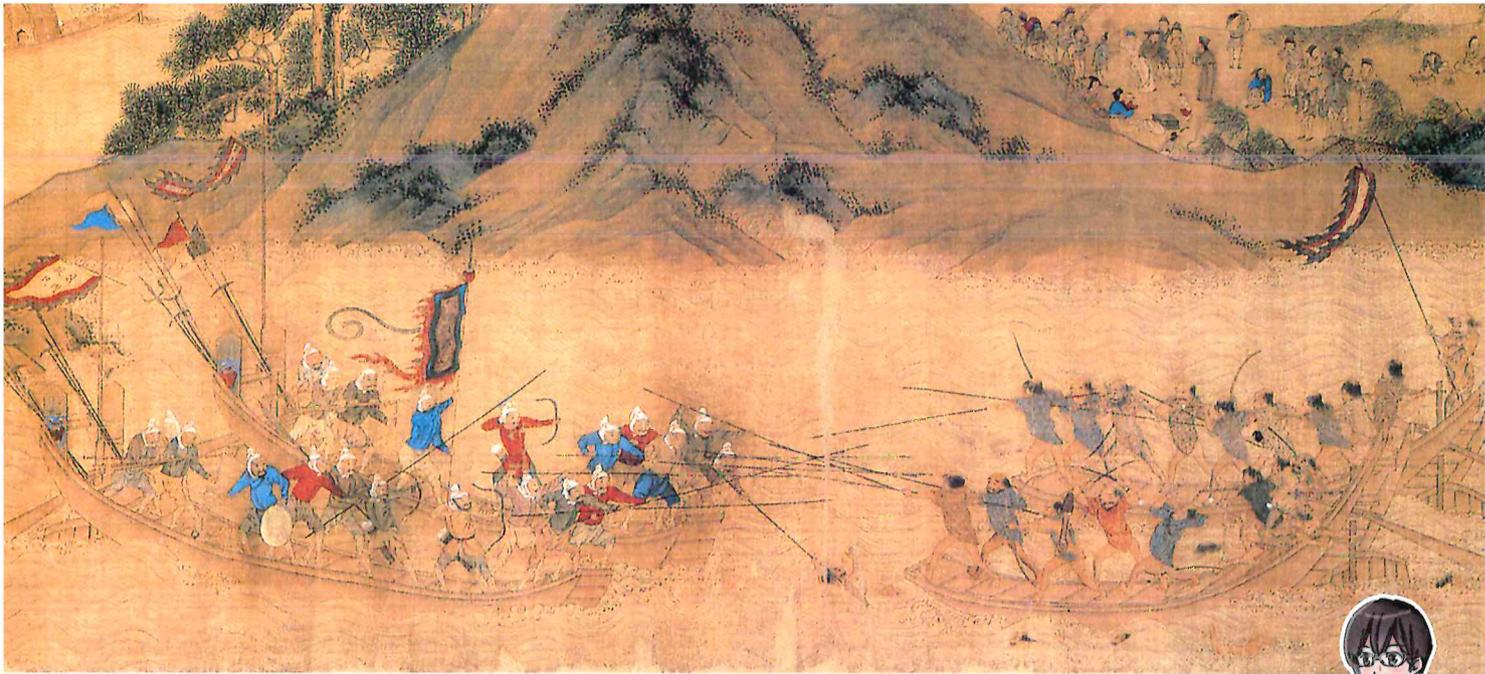


↑9 足利義満 (1436～90) [原文]東京国立博物館蔵

守護が、どのようにして守護大名に成長したのか、本文から書き出そう。

説明しよう

1	誕生
2	
3	
4	古墳
5	
6	飛鳥
7	奈良
8	
9	平安
10	
11	
12	
13	鎌倉
14	南北朝
15	室町
16	戦国
17	安土・橋本
18	江戸
19	明治
20	大正
21	昭和
22	平成
23	令和



↑1 明軍と倭寇の戦い 16世紀の明軍と倭寇の合戦を描いています。海賊行為などをする倭寇に、明の人々は苦しめられました。【倭寇図巻】東京大学史料編纂所蔵

明は、倭寇に対処するために、どのようなことをしたのかな。



3 東アジアの交易と倭寇

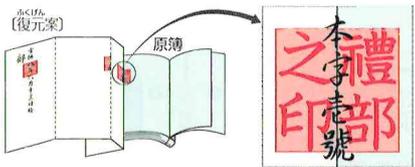
2節の問い ユーラシア大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのだろうか。

学習課題 室町幕府は、明や朝鮮とどのように貿易を進めたのだろうか。

倭寇の出現と明の成立 南北朝の内乱が続いていた14世紀半ばから、東シナ海では倭寇の活動が盛んになり、朝鮮や中国を苦しめていました。倭寇は、現在の松浦地方(長崎県・佐賀県)や対馬・杵岐(長崎県)などを根拠地とし、密貿易や海賊行為をしていました。このころの倭寇は、日本人が中心で、ほかに朝鮮人や中国人なども加わっていたと考えられています。

中国では、1368年に漢民族によって明が建国され、衰えた元は北に追いやられました。明は、臣下として朝貢してくる周辺国の王に対し、皇帝が高価な品物を返礼として与えるという、東アジアの伝統的な国際関係によって、通交と貿易を管理しました。そして、倭寇を取り締まるため、明国内の民間人に対し、海外渡航や貿易を禁止しました。

室町幕府と日明貿易 室町幕府は明に朝貢する関係を選び、しばらく途絶えていた公式の使節を派遣しました。明は朝貢の条件として、倭寇の取り締まりを要求し、幕府はその申し入れに応じました。そして、明から「日本国王」に任命された足利義満は、朝貢形式による日明貿易を始めました。正式な貿易船には、通交の許



↑2 勘合 文字と印が、勘合と原簿とで左右に分かれるようになっています。日本船が持参した勘合が、明にある原簿と合えば、正式な貿易船と認められました。

→3 日本が貿易する際に持参する勘合 使節の説明や貿易品の内容を記入し、明の皇帝から与えられた金印を押しました。



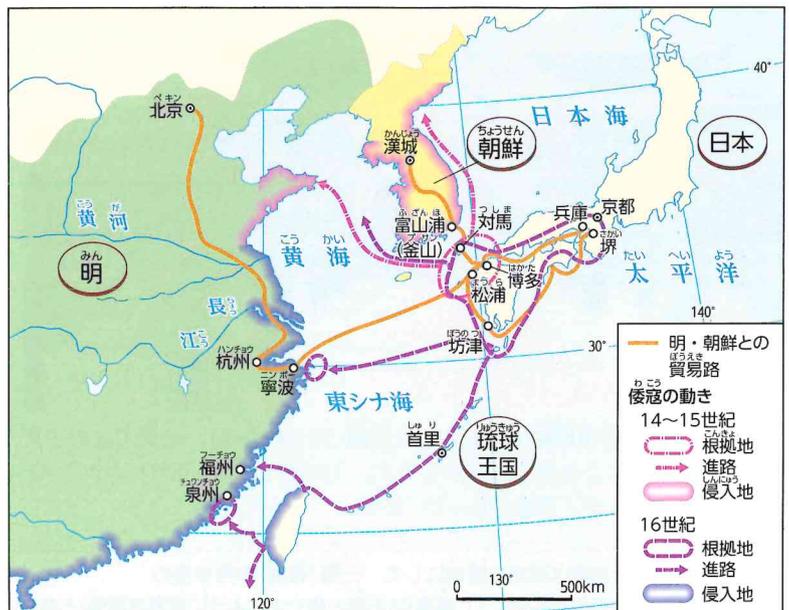
① 中世日本では、日本独自の貨幣は鋳造されず、東アジア各地で使われていた中国の貨幣が活用されていました。一方、それらを模造した質の悪い銅銭も流通していました。

あしががよしみつ
足利義満 小地公

1358~1408

「日本国王」とされた将軍

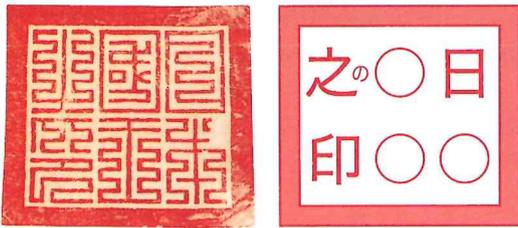
義満は「花の御所」(→p.85)とよばれる広大な屋敷をつくり、将軍を辞めて出家した後は金閣(→p.98)など北山の隠居所をつくらせました。義満の財力の源の一つが明との貿易でした。朝貢は明から臣下の扱いを受けるため国内の批判は大きかったのですが、これを断行したことでばく大な富を得ることができました。こうして義満の権力や地位は、ますます高まりました。

4 足利義満が任命された称号 義満が明の皇帝から与えられた金印の代用品が残っています。[山口県防府市 毛利博物館蔵]

5 14~15世紀の東アジアの地図帳活用

資料活用 ○にあてはまる文字を考えてみよう。



可証として明から勘合が与えられたので、勘合貿易ともいいます。これにより、倭寇の活動は一時期ずまりました。

日明貿易では、日本からは銅や硫黄・刀剣・扇などが輸出され、明からは生糸や絹織物・陶磁器・書画などが輸入されました。また、日本国内で不足していた銅銭も大量に輸入され、流通しました。この日明貿易によって、幕府にはばく大な富がもたらされました。

室町幕府と朝鮮 14世紀末、朝鮮半島では倭寇の侵入を食い止めた李成桂が、高麗を倒し、国名を朝鮮と改めました。朝鮮では新たな文字であるハングルがつくられ、金属活字を用いて印刷するなど独自の文化が発展しました。

朝鮮も、日本に倭寇の取り締まりを強く求め、その代わりに通交と貿易を許可しました。朝鮮からは、大量の木綿や仏教の経典・陶磁器などが輸入されました。朝鮮は、貿易相手を幕府に限定しなかったため、守護大名、北九州や瀬戸内海の武士、博多の商人などが貿易に参加しました。

こうして貿易相手が押し寄せるようになると、朝鮮は船が立ち寄れる港を制限し、勘合に似たしくみをとって貿易を統制しました。このしくみに重要な役割を果たしたのが対馬(長崎県)の宗氏で、後に宗氏は朝鮮との貿易を独占するようになりました。

歴史プラス+ 東アジアの美、磁器

中世の日本では陶器生産のみで、磁器を焼くことはできませんでした。微妙な青みを帯びた青磁や透き通った白磁の魅力は日本人の心をとりえ、日明貿易と日朝貿易では、明や朝鮮の白磁や青磁が盛んに輸入されました。(→p.90A2)

→6 宋の白磁[「青白磁牡丹唐草文瓶」東京国立博物館蔵]



안녕하세요 (こんには)

김치 (キムチ) 신년 (新年) 치마저고리 (女性の服装)

7 ハングル 朝鮮半島では、従来漢字が使われていました。ハングルは、庶民でも学びやすい文字として1446年に公布されました。

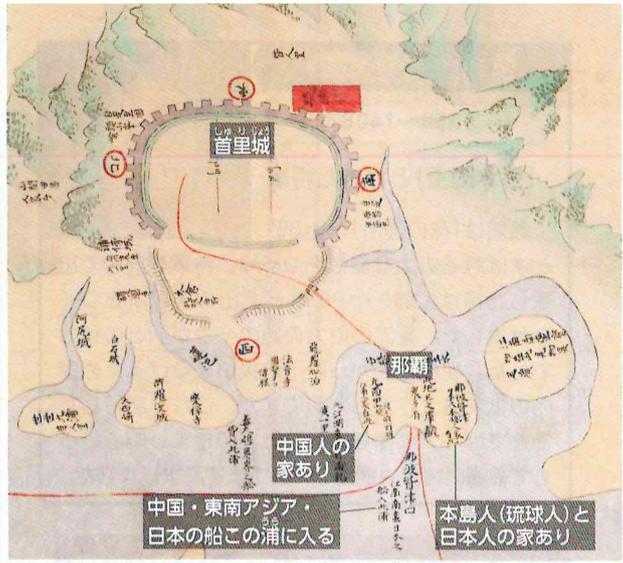
確認しよう 室町幕府が明と貿易するにあたり選んだ関係と、通交証の名前を、本文から書き出そう。

説明しよう この時期に東アジアで行われた貿易の特徴を、「朝貢」「倭寇」の言葉を使って説明しよう。

縄文
弥生
古墳
飛鳥
奈良
平安
鎌倉
南北朝
室町
戦国
安土・松山
江戸
明治
大正
昭和
平成
令和



↑1 世界文化遺産首里城跡に復元された正殿(2018年1月) 琉球王国の王宮で、写真は再現された当時の正月儀礼です。この復元された正殿は、2019年10月に焼失しましたが、再建が進んでいます。



↑2 琉球国図(沖縄島の拡大) 15世紀の琉球王国を描いた絵図です。[沖縄県立博物館・美術館蔵]

資料活用 港町的那覇には、どのような国・地域の人々がいたのか、読み取ろう。



琉球国は南海の勝地にして 三韓(韓国)の秀を集め 大明(中国)をもって輔車(ほお骨と歯ぐきのように重要な関係)となし 日域(日本)をもって唇齒(くちびらと歯のように密接な関係)となす この二つの中間にありて 湧出する蓬萊の島(仙人の住む理想郷)なり 舟楫をもって(船を運ばせて) 万国の津梁(懸け橋)となし 異産至宝は十方刹に充滿す…

↑3 万国津梁の鐘 1458年につくられ、もとは首里城正殿にありました。[那覇市 沖縄県立博物館・美術館蔵]

万国津梁の鐘には、琉球王国はどんな国だと書かれているのかな。



4 琉球とアイヌ民族が つなぐ交易

2節の問い ユーラシア大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのだろうか。



←4 3つの勢力に分かれていたころの琉球 按司とよばれる豪族が各地にグスク(城)を築き、勢力争いをしていました。

↓5 守礼門 首里城の外に建てられた飾りの門です。



学習課題

琉球王国やアイヌ民族は、周辺諸国とどのような関係を築いたのだろうか。

東アジアをつなぐ琉球

琉球(沖縄県)の島々では、10世紀ごろに農耕が始まりました。14世紀半ばには北山・中山・南山の3つの勢力が並び立ち、15世紀には中山の王である尚氏によって統一され、首里(現 那覇市)を都とした琉球王国が成立しました。奄美大島(鹿児島県)から与那国島に及ぶ地域がその領域でした。

琉球は14世紀末に明との朝貢貿易を始め、さらに日本・朝鮮・東南アジアの国々とも盛んに交易を行いました。琉球は、琉球産の硫黄や日本の刀・屏風、東南アジア産の珍しい香辛料や蘇木(染料)などを明にもっていき、その返礼として得た絹織物・陶磁器などを諸国に転売しました。中国・東南アジアや日本の坊津(鹿児島県)・博多(福岡県)・堺(大阪府)の商人をはじめとした人たちも、アジア各地の交易品の集まる琉球の那覇港へやって来ました。

こうした中継貿易によって琉球王国は繁栄し、独自の文化を築きました。しかし、16世紀半ばになると、明の商人が国による通交と貿易の規制を破って東南アジアや日本へ盛んに進出するようにな



未来に向けて 北海道独自の文化 伝統・文化

本州が古墳時代から平安時代であった長い間、樺太(サハリン)から根室半島・千島列島に及ぶ地域には海との関わりが強いオホーツク文化が、北海道のそれ以外の地域には擦文文化とよばれる独自の文化が、形づくられていました(→p.31)。

擦文文化は、木片でこすった跡が残る土器(擦文土器)が出土することからこの名前がついており、やがてオホーツク海沿岸部まで広がりました。後に擦文文化はアイヌ文化へと発展していきました。

→7 熊像 オホーツク文化の遺跡から出土した熊像で、鯨の歯でつくられています。何かしらの儀式に使われたと考えられています。[北海道 網走市立郷土博物館蔵]

←8 志苔館付近で出土した大量の古銭 越前焼(現在の福井県産)の大がめから、大量の銅銭が出土しました。広域で活発な交易の存在がうかがえます。[北海道 市立函館博物館蔵]

り、ポルトガル商人などの活動も活発になりました。その影響を受け、16世紀後半になると、琉球船の活動は衰えていきました。

アイヌ民族と交易

日本列島の北端では、狩りや漁を中心とした生活が長く続いており、13世紀までにはアイヌ文化

が成立しました。北海道のアイヌ民族は、樺太や千島列島に進出し、アムール川流域で活発に交易・交流していました。

また、津軽半島(青森県)の十三湊は、アイヌ民族と和人(本州の人々)の交易地となり、北の日本海交通の中心でした。14世紀ごろには、領主の安藤(安東)氏の下で繁栄し、北方産の鮭や昆布・毛皮などが日本海をって京都などへ運ばれていきました。

やがて和人は、北海道の南部へ進出し、館とよばれる根拠地をつくり、アイヌ民族と交易しました。15世紀半ば、和人の進出に圧迫されたアイヌ民族は、コシャマインを指導者として、和人と衝突を起しました。この衝突から80年ほど争乱が続くなかで、和人の居住地は限定されていきました。その後しばらくは、アイヌ民族と和人の交易は安定したものとなりました。



↑9 和人の北海道への進出

確認しよう

琉球王国とアイヌ民族が交易していた相手と交易品を、本文からそれぞれ書き出そう。

説明しよう

琉球王国やアイヌ民族は、本州の人々とどのような関係をもったのか、説明しよう。

縄文
3C
A0
1 弥生
2
3
4
5 古墳
6
7 飛鳥
8 奈良
9
10 平
11 安
12
13 鎌倉
14 南北朝
15 室町
16 戦国
17 安土桃山
18 江戸
19 明治
20 大正
21 昭和
平成
令和